序章　自民党政治の終焉……1
リーダーを育成できず／「勝ち馬志向」症候群／矛盾深まる政策／総選挙の回避／意味ある政権交代へ

第1章　なぜ政権交代が必要か……13

1　権力の暴走を防ぐ　14
議院内閣制と権力の集中／政党組織の強化と「選ばれた独裁」／日本に特有の問題——裁判所とメディアの弱さ／政と官の結合／歯止めとしての政権交代

2　国民の選択を実質化する　28
政治における対立軸と選択／右と左／民主政治のサイクル／社会化と個人化／試行錯誤としての政権交代

3　日本における政権交代論　42
明治憲法体制と政権交代論——福沢諭吉の卓見／戦前期政党政治の黄金時代と衰退

第2章　アメリカの政権交代……49
1　二大政党の構図　51
リベラルと保守――経済的対立軸／リベラルと保守――人種的・文化的対立軸／支持基盤と政党／大統領制と政権交代／予備選挙のダイナミズム／スタッフの存在
2　保守革命の構造　64
レーガン政治というパラダイム／9・11とブッシュ政治／ブッシュ時代の終焉
3　オバマ旋風の政治的意義　73
希望の再発見／新自由主義の終わりを告げる世論／オバマ勝利から学ぶこと／グローバル・ニューディールという課題
第3章　イギリスの政権交代……83
1　二大政党政治の実像　84
選挙の実態／政治主導と政官関係／(1)下降型――ウェスト

ミンスターモデル／(2)上昇型――日本モデル
2　ブレア政治はイギリスをどう変えたか　96
福祉国家と合意の政治／サッチャリズムは何を変えたのか／労働党の再生とブレア／政権交代と政策転換／ブレアの挫折と労働党の腐朽／政権交代の経験と政党の生命力

第4章　なぜ日本に政権交代がないのか……115
1　自民党政権はなぜかくも長続きしたか　116
冷戦構造と体制選択論／豊かな社会と国民統合／政官の結合とデファクトスタンダードの確立／危機への対応と自己修正能力
2　改革の時代と自民党の危機　126
転機としての一九八九年／政治改革論議の浮上／社会党の混迷／政権交代へ
3　一九九三年の教訓――政権交代から誰が何を学んだか　135

なぜ竜頭蛇尾に終わったのか／自民党における機会主義の強化／改革をめぐる混迷／マニフェスト運動をどう考えるか

4　小泉純一郎とは何だったか——自民党の中興の祖か、破壊者か　146
構造改革路線と対立軸／首相支配の仕組み／生活不安という代償

第5章　民主党は政権を担えるか　155

1　民主党の歩み　157
一九九六年の結党へ／第一次民主党の理念／第二次民主党の党勢拡大

2　民主党の政策的混迷　165
改革をめぐる議論の混迷／(1)市場化のベクトル／(2)市民化のベクトル／(3)市民化と市場化の相乗り／民主党における改革の曖昧さ

3　小沢民主党の課題と可能性　174
政党再編と小沢の誤算／小沢の変身？／小沢の憲法観／代表就任と党勢回復／二〇〇七年参議院選挙の大勝／政党再編の誘惑と政権交代への道

第6章　政権交代で何を変えるのか……195

1　現代日本政治における憲政の常道　196
指導者と政策のパッケージの選択／解散総選挙をどう位置づけるか／一元的民主主義と政権交代／健全な一元的民主主義の条件

2　有意義な政治的対立軸　211
大きな時代状況を認識する／改革の呪縛を断つ

3　政権交代可能な政治システム　219
一九九三年との対比――何が達成され、何が残されたか／左派の選択肢をどう立ち上げるか

おわりに——これからの民主政治……229
あとがき 237